

## 第2章 都市の将来像

### 1. まちづくりの理念

全国的な人口減少基調の中にあって、本町は県内2大都市への近接性等の好条件から若い世代の人气が高く、人口は増加基調にあります。

今後もこうした本町の強みを活かしながら、市街地の無秩序な拡大を防ぎつつ、賑わいや活力を生み出す拠点を形成するとともに、必要な都市機能や公共サービスが揃った市街地の「まとまり」を形成していくことが望まれています。

加えて、着実に進行している少子化や超高齢社会への対応は必要であり、今後とも豊かな自然・田園環境との調和を図りつつ、あらゆる世代が暮らしやすいまちづくりを進めていくことが望まれています。

以上のような考え方から、本プランが目指すまちづくりの理念を次のとおり設定します。

#### ◆本プランが目指すまちづくりの理念

「まとまり」をつくり、  
全ての世代が暮らしやすいまちへ

## 2. 都市構造のビジョン

### (1) 吉岡町の強み

都市構造のビジョン（目指すべき方向性）を定める上で、以下に示す本町が持っている強み（個性）を活かすこととします。

#### ①群馬県の中心に位置していること

本町が県の中心に位置していることから、県内全域に本支店が点在する企業や官公庁に勤務する人にとって、どこへ転勤になっても通勤しやすいことは、居住地を選ぶ際に強みとなります。

#### ②前橋市、高崎市の中心部から15km圏内にあること

県内2大都市の中心部から10km、15km圏内にあるため、両市への通勤、通学の利便性が非常に高いことが強みです。

#### ③広域的幹線道路のネットワークが形成されること

本町の発展を支えてきた前橋伊香保線（吉岡バイパス）と上毛大橋に加え、近年、国道17号、高崎渋川線バイパス及び南新井前橋線バイパスが、相次いで一部区間で開通しました。

更に、近い将来は、これらの路線の全線開通によって広域的な幹線道路のネットワークが形成されるため、近隣市町村のみならず、県内主要都市とのアクセス性の良さが強みとなります。

#### ④高速道路のインターチェンジが設置されていること

群馬県は、高速道路の十字軸が形成され高速交通の利便性が高いことなどから、新規の工場立地面積は近年、常に全国トップクラスを誇っています。

本町も、平成16年度に駒寄PAに小型車限定のスマートICが設置されたことで、高速交通網の恩恵を受けられる強みが加わりました。

現在、全国66のスマートICの中でトップクラスの交通量となっており、更に、平成29年度には大型車も利用可能となることから、企業誘致などの面で強みが増すこととなります。

⑤ J R東日本の鉄道が通っていること

本町には、J R東日本の鉄道（上越線）が通っています。群馬県内35市町村のうち中小私鉄も含む鉄道が通っているのは24市町村です。

このうち、駅が設置されていないのは本町のみという状況にありますが、鉄道駅の存在は本町の価値や魅力を更に高める財産（強み）になり得ます。



(2) 都市構造のビジョン（目指すべき方向性）

おおむね20年後の将来を見据え、都市構造の目指すべき方向性（ビジョン）を以下のとおりとします。

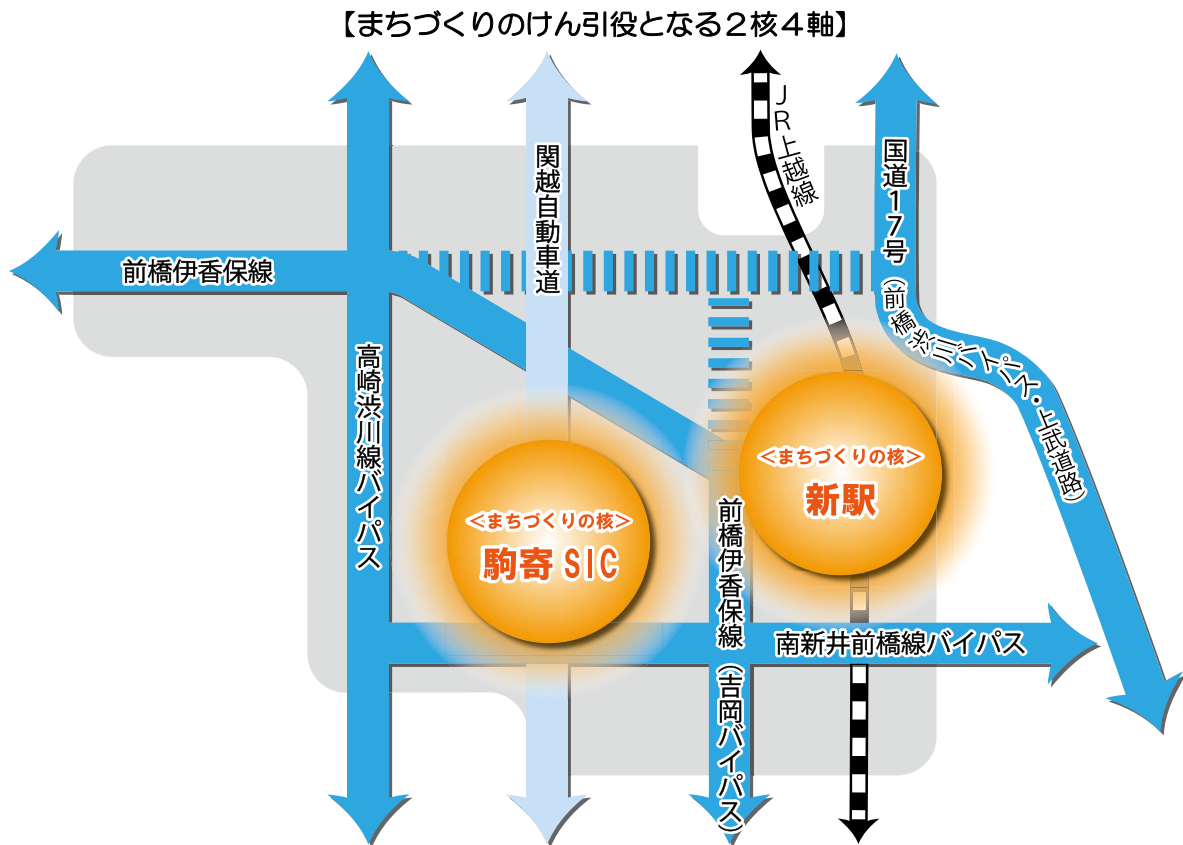
① 「2つの核」と「4つの軸」を最大限活かす

本町の強みを踏まえ、「駒寄スマートIC」と「JR新駅」を『まちづくりの核』、また国道17号、前橋伊香保線（吉岡バイパス）、高崎渋川線バイパス及び南新井前橋線バイパスの「広域的幹線道路4路線」を『まちづくりの軸』と捉え、この『2核4軸』をまちづくりのけん引役として最大限活かしていきます。

「駒寄スマートIC」については、企業の立地先としての魅力を高める核と位置付け、企業誘致による地元雇用の拡大や税収の確保に活かします。

「JR新駅」については、居住地としての魅力を更に高める核と位置付け、『全ての世代が暮らしやすいまちづくり』に活かします。

4つの広域的幹線道路については、都市構造の骨格をなす軸と位置付け、まちづくりにおけるあらゆる面において、2核と一体的にけん引役として活用します。



## ② メリハリをつけたまとまりのある土地利用への転換

無秩序な土地開発や市街地の拡大は、道路や上下水道などの公共投資が増え、町の財政負担の増大につながると同時に、土地利用の混在による生活環境、業務環境の悪化をもたらします。そこで、積極的に市街化を図るエリアと、市街化を抑制し現在の環境を保全するエリアとに町内を区分して、メリハリをつけるとともに、住宅地、商業地、工業地のあり方については、できる限りまとまりのある土地利用へと転換を図っていきます。